

私の相棒

一年 杉山 哲平

私は、小学四年生のころ犬の飼い主になりました。飼っている犬は柴犬で名前は、ハチです。生まれてから5ヶ月たち、大きくなっていったため、ペットショップで売れ残っていました。それを見て私は、保健所で殺処分されてしまうと思い、とても心配になりました。なので私は、家に迎え入れようと思いました。家に迎え入れれば、ハチに新しい友達ができ、色々な人にかわいがってもらえる、と思ったからです。

犬を飼う事には、責任があります。それは、命を守るという責任です。命を守るという事は、世話をすることだけでなく、犬の事をしつかり理解することです。ハチの事を理解するには、よく観察することが必要でした。それは、人間のように会話ができないからです。観察をし、少しでもハチの事を理解し、コミュニケーションをとろうと思ったからです。ハチは、食べたい時は、ほえ、うれしい時は耳をたらし、しっぽを右に大きくふります。私は、顔の表情、態度からもハチの事を理解できるようになりました。さらに一つ大きな事が分かりました。それは、ハチも人間の言葉や表情だけでなく、行動も観察していることです。例えば、ご飯前テーブルに食器やおはしなどを、ならべると、寝ていたのにもかかわらず、

パッと起き、ほえるのです。

「やった!!ご飯だ。うれしい。」

そのように感じられました。

ハチが家に来てから四年がたちました。前はご飯の時ほえていましたが、今は、あまりほえず、静かにおすわりをしながら待つようになりました。

「大人になったな。」

そう実感しました。さらにハチは、私が帰宅すると、ベッドから起きあがり、迎えに来てくれます。私は、とてもうれしいです。学校での疲れがとれ、私をいやしてくれる、そんな存在になりました。夜は毎日、布団を並べ一緒に寝ています。でも以前、私の部屋でおしっこをもらってしまった事が四回あります。ハチにも失敗は、あります。でもその時は、ただ怒ってしまいました。ハチのおもらしは、自分も悪いとは思いませんでした。今考えると、ハチはただ、トイレに行きたかったけど行けなかった、家族に自分の事を気にしてほしかったなど、ハチは何か行動に現していたかもしれないと思いました。なので、これからはハチの一つ一つの行動を観察し、考える事をしていきたいです。

ハチは、私の大切な家族であり、私の相棒でもあります。犬にも感情がある事を気づかせてくれました。私は、ハチが大好きです。ハチと一日でも長く共に過ごせるように、もっとハチとの理解を深め、一日一日を大切にしていきたいと思います。